

事務連絡
令和元年 10 月 17 日

一般社団法人 日本アレルギー学会 御中

厚生労働省健康局がん・疾病対策課

ヒアりに刺された場合の留意事項について

ヒアリ対策については、平成 29 年 6 月に国内初確認され、関係省庁の連携により、水際での防除に取り組んでまいりました。

しかし、本年 9～10 月に東京港青海ふ頭において確認された巣からは、50 個体以上の有翅女王アリが確認されたことを踏まえ、ヒアりに刺された場合の医療的留意事項を、都道府県主管衛生主管部（局）宛てに、別添の通り事務連絡を発出いたしましたことをご連絡いたします。

貴会におかれましても会員等への周知を図っていただきますようお願いいたします。

照会先 厚生労働省健康局がん・疾病対策課 伊藤（内線 2 2 9 1） 川名（内線 2 2 9 3） 寺村（内線 2 0 6 6） （代表番号）0 3 - 5 2 5 3 - 1 1 1 1

事務連絡
令和元年 10 月 17 日

都道府県衛生主管部（局）御中

厚生労働省健康局がん・疾病対策課

ヒアリに刺された場合の留意事項について

ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について連絡いたします。

ヒアリは、南米原産で体長は 2.5～6mm 程度、体色は主に赤茶色の有毒のアリです。世界では北米やアジア等にも外来生物として侵入・定着しており、世界各地で大きな問題となっています。

ヒアリは、極めて攻撃性が強いとされており、刺された際には、アルカロイド毒により、熱感を伴う非常に激しい痛みを覚え、水疱状に腫れ、その後、膿が出ます。

さらに毒に含まれる成分に対してアレルギー反応を引き起こす例があり、局所的、または全身にかゆみを伴う発疹（じんましん）が出現する場合があります。欧米においては、アナフィラキシー症例も報告されています。

ヒアリの毒には、アルカロイド毒であるゾレノプシン（2-メチル-6-アルキルピペリジン）のほか、ハチ毒との共通成分であるホスホリパーゼやヒアルロニダーゼなどが含まれています。そのため、ヒアリに刺された経験が無くてもハチ毒アレルギーを持つ方は特に注意が必要です。

ヒアリに刺された方がアナフィラキシー症状を引き起こした場合、アドレナリンを注射するなどの適切な救急処置をとる必要があります。

貴部（局）におかれましては、本事務連絡の趣旨を御了知いただくとともに、貴管下の関係医療機関宛てに周知いただきますようお願いいたします。

なお、咬まれた時の対処方法を含め、ヒアリの特徴、生態、駆除方法等の参考として、平成 31 年に環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室から発行された、『ストップ・ザ・ヒアリ』もご参照ください。

<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/20190314hiari.pdf>

以上

照会先 厚生労働省健康局がん・疾病対策課 伊藤（内線 2 2 9 1） 川名（内線 2 2 9 3） 寺村（内線 2 0 6 6） （代表番号） 0 3 - 5 2 5 3 - 1 1 1 1
--